

おかねの作文 コンクール

第55回

金融広報中央委員会は全国の中学生を対象に「おかねの作文」を募集しています。みなさんの見たこと、聞いたこと、感じたことをもとに「おかね」について考えてみよう。



9月15日しめきり!! 消印有効

特選5編

賞状と図書カード4万円分

金融担当大臣賞

文部科学大臣賞

日本銀行総裁賞

日本PTA全国協議会会長賞

金融広報中央委員会会長賞

秀作5編

賞状と図書カード2万円分

佳作10編

賞状と図書カード3千円分

学校賞5校

特選受賞者
在籍校

賞状と図書カード1万円分



テーマ（作文に書く内容）は、「おかね」に関することであれば、どのようなものでも構いません。

テーマを考えたときの参考として、以下に例を示します。ただし、この中から選ぶ必要はありません。自分が書きたいと思う内容を自由に考えてみてください。

テーマを決めた後、作文の内容にふさわしいタイトル（題）をつけてください。

◆テーマの例

1. 将来の夢の実現とおかねの関わり

あなたの将来の夢は何ですか。やってみたい仕事はありますか。あなたが思い描く未来を実現するために、どのようなことを心がけ、準備をしていったらよいでしょうか。あなたの「将来設計」を、おかねとの関わり方を含めてまとめてみましょう。

2. 私のおかねのルールやわが家の約束事

あなた自身やあなたの家族で決めているおかねについてのルールはありますか。商品を買うときに心がけていること、携帯電話の使い方、お小遣いのルールなど、消費者として行動の基準としている点はどのようなことですか。2022年4月に成年年齢が18歳に引き下げられたことも踏まえながら、整理してみましょう。

3. 活きたおかねの使い方とは

おかねの使い方は、その人の価値観や考え方を表すとともに、多少なりとも世の中に影響を与えます。買い物や貯金などについての自分自身の体験や、周囲の人のおかねの上手な使い方について書いてみましょう。

4. ニュースにみるおかね

新聞やテレビ等で報道された、おかねが関わるニュースを取り上げて、あなたが思うことを書いてみましょう。身近な地域、中学校、社会や文化、海外や世界が関係するさまざまなニュースの中で、関心を持ったニュースを探してみましょう。

第55回「おかねの作文」コンクール 募集要項

[応募資格] 中学生

[賞] ●特選5編(賞状と図書カード4万円分)

金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/日本PTA全国協議会会長賞/金融広報中央委員会会長賞

●秀作5編(賞状と図書カード2万円分)

●佳作10編(賞状と図書カード3千円分)

●学校賞(特選受賞者在籍校)5校(賞状と図書カード1万円分)

[締め切り] 2022年9月15日(木)※消印有効

[発表] 12月中旬頃、金融広報中央委員会ホームページ(<https://www.shiruporuto.jp/>)などで発表。

[送付先] 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 5F 毎日企画サービス

金融広報中央委員会コンクール事務局「おかねの作文」コンクール係

※インターネットの専用サイトからも応募できます。下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。 <https://www.ron2022.jp/>

[問い合わせ先] 金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL.03-6265-6818(土・日・祝日を除く10時~17時)

金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ <https://www.ron2022.jp/>



作文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えていただきたいこと

金融教育は、社会の中で生きていくために必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身に付けることなどを目的としています。「生活設計・家計管理」「金融や経済の仕組み」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」という4つの分野に分けられ、「生きる力」の育成にもつながります。作文を書くにあたっては、生徒たちへ上記のテーマの例などを参考に、身の回りのお金や自分の将来に目を向け、考えたことを書くようご指導ください。

金融広報中央委員会とは？

「金融広報中央委員会」(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

あなたは、お金やモノを大切にしていますか？

私たちの回りには、たくさんのモノやサービス、情報があふれています。「豊かな社会」の中で、本当に必要なものを選択し、使っていくことが大切です。お金の使い方もそうです。適切な判断と行動ができる消費者になるためには、将来を見越して計画的にお金と付き合えるようにならなければなりません。

金融広報中央委員会が募集した「おかねの作文」コンクール、昨年は全国から4,324点の作品が寄せられ、20点が入賞作品に選ばれました。これらの作品も参考にしながら、自分の回りで「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」をもとに、自分自身の意見をまとめてみましょう。



過去の入賞作品はこちらでご覧いただけます。

https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_sakubun/



第54回

2021年

受賞作品の紹介

金融担当大臣賞

思いやりのお金

栃木県 宇都宮市立一条中学校 2年
岩井 颯葉さん

作品の内容

他人にお金を使うことが苦手だった筆者は、母親から紹介された参加費500円のごみ拾いボランティアに参加します。気乗りしないまま始めたごみ拾いでしたが、汚かった海岸がきれいになり他の参加者と親しくなっていくことで、心がうれしさを満たされ、自分に足りなかったのは「他人を思いやる心」だったと気づきます。「お金は自分の満足のためだけでなく、人との関わりの中で有効に使うこともできると気づいた点に作者の成長を感じた」と評されました。

受賞者の声

有料のボランティアを通して、お金で買えるものは物だけでなく、他にもたくさんあるのだと実感しました。成長するにつれ、手にお金も増えていくと思います。ですが、その時に自分が本当に欲しいものは何なのかをよく考え、また誰かを思いやるためにもお金を使っていきたいです。

文部科学大臣賞

新たな一面

神奈川県 聖ヨゼフ学園中学校 3年
酒井 優羽さん

作品の内容

お金を紙幣や硬貨のデザインから論じた作品です。家族旅行で海外を訪れた時にはその国のお金のデザインをチェックするという筆者。キャッシュレス化が進みお金に触れる機会が減ることで、各国のガイドブックの役目も果たしているお金なくなることは避けてほしいと力説。お金は売買のためだけでなく、それぞれ国の歴史、文化、自然にも触れることのできるものだという視点と展開にオリジナリティがあると評価されました。

受賞者の声

このコンクールを通して、お金の可能性は無敵大だと感じました。そのものの価値はもちろん、絵柄や形など、お金はさまざまな要素で人々を魅了しています。お金だけでなく、私たち学生の可能性も無限大だと思うので、お金に負けないように私も頑張りたいと思います。

日本銀行総裁賞

お札が紙くずになった日

京都府 京都市立旭丘中学校 1年
畠山 あずみさん

作品の内容

筆者がインド滞在中、ナレンドラ・モディ首相による高額紙幣無効化が発表されました。社会が混乱する中、インドに住む日本人の助け合いが何より支えになったといい、「現金も電子マネーも人が決めた道具に過ぎない。政府の政策、災害、紛争等でお金が使えなくなった時、頼れるのは人と人との繋がりが」と実感します。審査員からは「お金という人為的な価値に対し、普遍的な価値としての共助の大切さを捉えている点が印象的だった」と評価されました。

受賞者の声

インドの旧紙幣は破れかけていたり、数字やヒンディー語の落書きがあったりヨレヨレ状態。当時8歳の私は、ポロポロだから「紙くず」にしてしまったんだと思いました。思い出を作文にすることで、お金の価値について考える機会になりました。

日本PTA全国協議会会長賞

コロナ時代に「おかね」について考えた事

東京都 筑波大学附属中学校 1年
京田 悠雅さん

作品の内容

コロナ感染のリスクから筆者は現金に触れる機会が減りました。電子マネーや交通系ICカードの便利さに気づく反面、不安も感じるようになり、お金の価値、用途、セキュリティについて学び、自分への投資の必要性にも気づいていきます。最終的にはお金に関しても自分の選択肢を持つことが大切だと結び、「コロナ禍での経験から、お金の使い方について、自分の感じたことを描いている点が非常に良かった」という評価を受けました。

受賞者の声

この作文を通して、自分とお金との関わり方について家族と話し合う機会がありました。電子決済以外にも沢山の情報があり、とても奥深く難しかったです。時代の変化とともに形を変えて流通するお金について、関心を持ち続けて学ぶ大切さを強く感じました。これからは、自分の成長に合わせて一番合った形でお金を利用できるようになりたいと思います。

金融広報中央委員会会長賞

お下りのランドセル

新潟県 新潟大学附属新潟中学校 2年
高橋 くららさん

作品の内容

筆者は姉からのお下りが多いことに不満を持っていました。高学年になったある日、今までの不満が爆発しその思いを母にぶつけます。そのときの母の言葉を聞き、筆者はお下りが節約のためだけでなく、姉と母の想いが込められていたと気づきました。審査員からは「『お下り』の裏にある人々の想いに展開していく点に豊かな人間性を感じられる。広く中学生、指導される先生方に読んで欲しい作品」という評価を受けました。

受賞者の声

ものが溢れ、使い捨てが当たり前の今の社会に疑問を感じ、この作文を書きました。姉からの「お下り」のランドセルを通して学んだお金の価値観は、わたしを成長させると同時に、これからも心が満たされるお金の使い方を教えてくれるはずですよ。

秀作

家計簿から考えるお金の使い方
秋田県 秋田大学教育文化学部附属中学校 1年
榎 奏子さん

人と人との心をつなぐお金
神奈川県 横浜市立大道中学校 1年
荒井 若葉さん

「お助けポイント」から学んだもの
鹿児島県 三島村立三島片泊学園 7年
下戸 良佑さん

ひいおばあちゃんの三千元
秋田県 秋田大学教育文化学部附属中学校 2年
小島 日和さん

豊かな暮らしとは
鹿児島県 十島村立平島中学校 2年
新田 真子さん

学校賞

栃木県 宇都宮市立一条中学校
東京都 筑波大学附属中学校
神奈川県 聖ヨゼフ学園中学校
新潟県 新潟大学附属新潟中学校
京都府 京都市立旭丘中学校

前回
審査員
(敬称略)

塚本 俊太郎(金融庁総合政策局総合政策課課長補佐)
清水 敬介(公益社団法人日本PTA全国協議会会長)
島田 康隆(日本銀行情報サービス局金融広報課長)

藤野 敦(文部科学省初等中等教育局視学官)
勝田 敏行(全日本中学校国語教育研究協議会会長)
小泉 達哉(金融広報中央委員会事務局次長)



